

令和元年6月12日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03334

研究課題名(和文) 自然災害に対する観光地の「災害弾力性」に関する評価指標の開発

研究課題名(英文) The resilience of Tourist Destinations to Natural Disasters

研究代表者

橋本 俊哉 (HASHIMOTO, Toshiya)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：50277737

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、調査1：復興を遂げた国内外の観光地の事例分析、調査2：被災地・風評被災地の復興観光研究、調査3：被災観光地における復興への対応プロセスの分析を通して、観光地の「災害弾力性」(災害に対する抵抗力と回復力)を測定する指標を明らかにすることを目的としている。調査1の事例調査の分析ならびに東日本大震災の被災地域における調査2の継続的な実践の成果が研究領域の異なるメンバー間で共有され、調査3においては、文化財、伝統芸能、自然科学的知識、食と流通、文化的景観、風評等にかかわる具体的な指標が抽出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでの観光研究にはみられなかった「災害弾力性」(災害に対する抵抗力と回復力)の概念を導入し、研究分野の異なる研究者がその妥当性の検証を試みた。これまでにない視点からの総合的な研究成果として、国内・海外の観光地にも援用可能な、観光地の自然災害からの復興と持続的な発展モデルを提示した点に学術的意義を有している。

本研究の社会的意義は、自然災害大国である日本において、観光地の自然災害への備えや被災後の回復、さらには観光地が質的に変容するための指針として、地域が参考にしうる成果を提示している点にある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to development of the evaluation index of the natural disaster resilience of tourist destinations both theoretical and practical aspects. Furthermore, the role of tourism when coping with natural disaster is discussed. Three types of research were conducted: 1) Case study of domestic and international tourist destinations achieving reconstruction from the natural disaster, 2) Continued study of tourist destinations suffered natural disasters and damaged by rumors, 3) The analysis of the process to overcome the damage of natural disaster.

Through three types of research, the index of the evaluation is extracted related to cultural property, traditional arts, foods and distribution, cultural landscape, damaging rumors and so on, 3) Tourism plays an important role to remind disaster afflicted people of the significance of local nature and culture, promote reconstructing and creating the community in the affected area.

研究分野：観光行動論

キーワード：観光地 自然災害 災害弾力性 災害抵抗力 災害回復力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

自然災害は地域の変容を余儀なくするが、速やかに復興・発展する地域と影響が長期化する地域とがある。観光地では観光自体の再生に差異が表れる。こうした差異が生じる条件を明らかにすることは、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)以降自然災害の頻発するわが国の観光地の自然災害からの復興と持続的な発展において重要な視点である。災害への耐性のタイプには、被害を最小限にとどめるための、何らかの社会的・経済的な条件等を備えているかという側面(=「災害抵抗力」)と、被災後に速やかに立ち直ることができる条件を有しているかという側面(=「災害回復力」)とがあり、この両者の組み合わせによって観光地の災害への耐性の程度が特徴づけられると考えることができる。本研究ではこれを「災害弾力性」と称し、その立証と評価を研究のフレームとしている。

2. 研究の目的

本研究は、復興を遂げた国内外の観光地の事例分析、被災地・風評被災地の復興観光研究、東北地方の被災観光地における復興への対応プロセスの分析を通して観光地の「災害弾力性」(災害に対する抵抗力と回復力)を測定する指標を明らかにする。さらにその妥当性の検証を通して、国内・海外の観光地にも援用可能な、災害への耐性からみた観光地のモデルの提示を試みることを目的とする。なお、災害には自然災害と人為災害(戦争やテロ、放射能汚染等)とに大別されるが、これまでの知見に学びながら汎用性のある指標を抽出するという意図から、本研究では、地震、火山噴火等、自然現象に起因する災害に限定する。

3. 研究の方法

平成28年度ならびに29年度は、関連する先行研究のレビューと調査1、調査2を中心に進めることにより、観光地の災害弾力性(災害抵抗力・災害回復力)の指標の抽出を試みる。調査1.復興を遂げた国内外の観光地の事例分析においては、かつて自然災害により大きな被害を受けた内外の観光地から、その復興や再生、風評被害への対策等の視点から、指標の作成に多くの示唆が得られると考えられる代表的な観光地を選定し、被災から復興・再生に至るプロセスを分析することを通じて、指標の抽出を試みる。調査2.被災地・風評被災地の復興観光研究では、被災地として宮古市(岩手県)・風評被災地として磐梯山麓地域(福島県)を対象地とし、観光復興を実践する活動に取り組みつつ、現状把握と課題を明らかにすることを通じて指標の抽出を試みる。平成30年度は、28・29年度の成果をふまえ、研究分担者の研究領域の視点から、指標の総合的な検討とモデル化を試みる。

4. 研究成果

調査1では、津波被災地としてヒロ(米国ハワイ州)、地震の被災地として城崎町、桃米村(台湾)、由布市への現地調査を実施した。20世紀半ばに繰り返し津波の被害を受けてきたヒロでは、平時には景観面での配慮を確保しつつ沿岸地域をレクリエーション空間として利用することと、津波時のリスク回避とを両立しており、「冗長性」の考え方が実践されている。他に、津波学習の防災拠点の整備、日頃から中長期的な視点で都市ビジョンを描いておくことが被災後の迅速な復興計画の策定には欠かせないこと等、災害弾力性を高めるための多くの指針がえられた。城崎町(城崎温泉)は、そぞろ歩きが楽しめる現在の温泉観光地としての骨格が形成された背景に1925年の北但馬地震があり、災害後に町長のリーダーシップのもと、景観を守ることを重視した都市計画が有効性をもっていたことが明らかにされた。

桃米村は、被災後の復興に観光が重要な役割を果たすことになった好例である。1999年の台湾中部地震の被災により産業の衰退、人口の流出を招いたものの、これまで地元には何も魅力的な観光資源がないと思っていた住民が、豊かな生態系が保たれていることに気づき、地域に愛着を感じるようになり、生態解説員の養成講座や民宿経営、レストラン経営等の講座等の人材育成を行い「桃米生態村」として復興が進んだ。震災が契機となり、住民自身が地域の資源の豊かさを学ぶ機会を得て、その学びが住民に自信をつけ、ガイドや民宿経営等の自律的な観光に携わることに繋がった。台湾国内の小中学生が社会科見学で訪れたり、2004年に日本で発生した新潟県中越地震では、被災地の行政職員らが視察に訪れるなど、桃米村を訪れる人々にとっては自然、防災への理解を深めることに繋がり、震災の記憶を伝承する場となっている。

由布市(由布院温泉)は1975年の大分県中部地震において、直接被害はホテル1軒のみであったものの、その様子がマスコミで報じられたことで深刻な風評被害に見舞われた。風評被害を受けた危機感をもって関係者が一丸となって、長期的な視点で再生に取り組んだことで、由布院は全く新しい温泉地として生まれ変わることができた。本質的な魅力を磨くことを怠らず、長期的な視点にたつて、創造力を働かせて日々備える努力を継続することは、風評被害を最小限にするのみならず、新たな観光地として生まれ変わるエネルギーの源泉ともなる。日々の努力によって培われた観光地の総合的な「体力」が、観光復興の速度を左右することになることが重要な指針となることが明らかにされた。

調査2では、被災地として宮古市(岩手県)、風評被災地として磐梯山麓地域(福島県)を調査対象地として繰り返し訪問し調査を進めた。宮古市においては、芸能の活用を通じたエコツーリズムの活動を実践し、今年度は地元の若者の力によって地域の魅力を再発見しようとする活動を進めているNPO法人との連携を進めることで、今後、持続可能な形で活動を進める体制を構築することができた。磐梯山麓地域では、1888年の磐梯山噴火後の地形や社会への影響を学ぶジオツアーを研究対象として、地元の研究パートナーとともに住民ならびに訪問者に対する防災意識の向上に取り組み、同地域の被災地の痕跡を案内する際に活用できる案内資料(地図)を作成することができた。

調査3では、研究領域を異にする研究協力者が調査の成果を持ち寄り総合的に検討することで、「災害抵抗力」「災害回復力」に関する指標が抽出された(図1・2)。

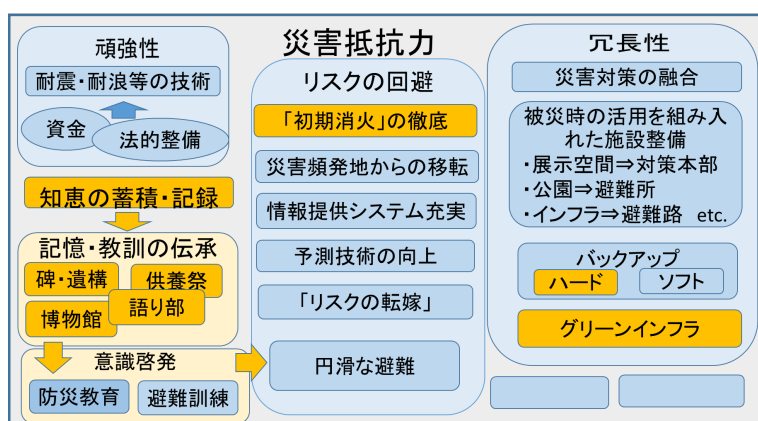


図1 観光地の「災害弾力性」に関わる指標（災害抵抗力）

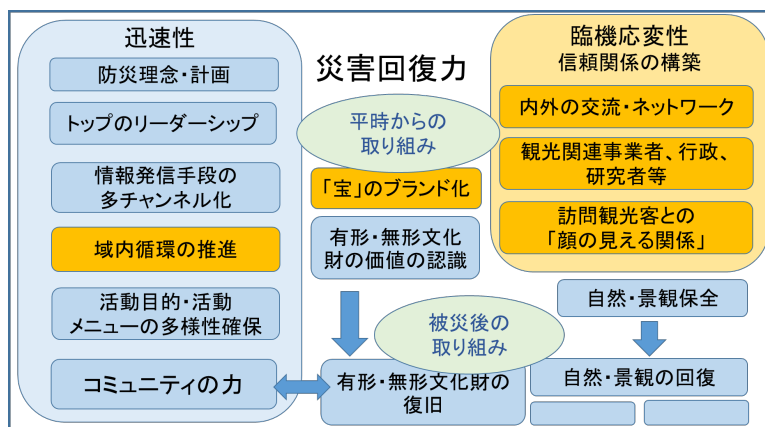


図2 観光地の「災害弾力性」に関わる指標（災害回復力）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計19件)

橋本俊哉、風評被害からの観光振興 「風評手控え行動」の視点から、人と国土 21、査読無、44(1)、2018、14-18

室崎益輝、市町村合併と災害対応力、都市計画、査読無、67(9)、2018、34-35

海津ゆりえ、観光のグローバル化時代の森林整備：自然災害と森林、森林科学、査読有、82、2018、25-28

〔学会発表〕(計21件)

真板昭夫、「生き延びるための知恵」と観光を通じた伝承、日本観光研究学会第33回全国大会枠ショップ、2018年

海津ゆりえ・橋本俊哉、観光を通じた復興支援とは - 岩手県宮古市における黒森神楽を題材としたエコツアーの企画・運営を通して、日本農村計画学会公開シンポジウム「震災から6年を迎えた津波被災地における復興の現状と課題」、2017年

Takahide Kurosawa, Plant diversity and considerations for conservation of it in infrastructure reconstruction planning after the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 2011, East Asian Plant Diversity and Conservation, 2016

〔図書〕(計9件)

橋本裕之、発動機としての身体、もしくは一人称の鶺鴒神楽(ボナヴェントゥーラ・ルベティ編『日本の舞台芸術における身体』)、晃洋書房、2019年、307(47,66)

室崎益輝、事前復興と復興ビジョン(北後明彦・大石哲・小川まり子編『災害から一人ひとりを守る』)2019年、248(217,235)

海津ゆりえ、自然災害からの復興に芸能とエコツーリズムが果たす役割に関する研究(文教大学国際学研究叢書『世界と未来への架橋』)、創成社、2017、945(462,501)

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名： 海津 ゆりえ

ローマ字氏名： KAIZU, yurie

所属研究機関名： 文教大学

部局名： 国際学部

職名： 教授

研究者番号(8桁)： 20453441

研究分担者氏名： 真板 昭夫

ローマ字氏名： MAITA, akio

所属研究機関名： 嵯峨美術大学

部局名：

職名： 名誉教授
研究者番号(8桁)： 80340537

研究分担者氏名： 室崎 益輝
ローマ字氏名： MUROSAKI, yoshiteru
所属研究機関名： 兵庫県立大学
部局名： 減災復興政策研究科
職名： 教授
研究者番号(8桁)： 90026261

研究分担者氏名： 江面 嗣人
ローマ字氏名： EZURA, tsuguto
所属研究機関名： 岡山理科大学
部局名： 工学部
職名： 教授
研究者番号(8桁)： 00461210

研究分担者氏名： 橋本 裕之
ローマ字氏名： HASHIMOTO, hiroyuki
所属研究機関名： 大阪市立大学
部局名： 都市研究プラザ
職名： 特別研究員
研究者番号(8桁)： 70208461

研究分担者氏名： 黒沢 高秀
ローマ字氏名： KUROSAWA, takahide
所属研究機関名： 福島大学
部局名： 共生システム理工学類
職名： 教授
研究者番号(8桁)： 80292449

研究分担者氏名： 丹治 朋子
ローマ字氏名： TANJI, tomoko
所属研究機関名： 川村学園女子大学
部局名： 生活創造学部
職名： 教授
研究者番号(8桁)： 80340876

研究分担者氏名： 清野 隆
ローマ字氏名： SEINO, takashi
所属研究機関名： 江戸川大学
部局名： 社会学部
職名： 准教授
研究者番号(8桁)： 70598200

研究分担者氏名： 丸谷 耕太

ローマ字氏名： MARUYA , kota

所属研究機関名： 金沢大学

部局名： 人間科学系

職名： 助教

研究者番号(8桁)： 50749356

(2)研究協力者

研究協力者氏名： 松井 敬代

ローマ字氏名： MATSUI, takayo

研究協力者氏名： 佐藤 公

ローマ字氏名： SATOH, hiroshi

研究協力者氏名： 樋口 葵

ローマ字氏名： HIGUCHI, aoi

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。